

南米南部共同市場(メルコスール)をめぐる動き

■パラグアイが復帰し、加盟国拡大が進む

メルコスールは、1991年にブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイの4カ国が調印したアスンシオン条約によって枠組みが形成され、95年に関税同盟として発足した地域経済統合である。2012年8月にはベネズエラが正式に加盟し、2014年7月現在の加盟国は5カ国となっている。ベネズエラの加盟議定書は2006年に署名済みであったが、パラグアイ国会での批准が済んでおらず、これまで加盟が認められてこなかった。しかし、2012年6月にパラグアイのメルコスール会合への参加資格が停止され、同国の議決権が失効したことにより、ベネズエラの加盟が認められることとなった。

2013年7月のメルコスール首脳会合では、同年4月の大統領選挙で選ばれたパラグアイのオラシオ・カルテス新大統領の就任をもって、同国の資格停止を解除する声明が出された。その後、12月にパラグアイ国会でベネズエラの加盟議定書が批准され、同国は2014年から共同市場グループ(GMC)会合などに復帰している。

そのほか、2012年12月にはボリビアの加盟議定書が署名され、各加盟国国会での批准手続きが進められるなど、さらなる加盟国拡大の動きがある。2013年7月にはガイアナとスリナムが準加盟国入りに関する協定に署名した。現在準加盟国のエクアドルも正式加盟の手続きを進めると表明しており、2014年3月には民主主義順守について定めたモンテビデオ議定書の批准、ビザ要件の緩和などを定めた協定の批准を終えた。

■難航するEUとのFTA交渉

2000年に開始したEUとのFTA交渉は、一時的な中断を挟みながら現在も続けられている。2013年12月には関税削減対象品目リストの交換を行うこととなっていたが、その後延期された。メルコスール加盟各国の産業構造が異なるため、統一した品目リストを作成するには時間を要する上に、パラグアイの資格停止や首脳会合の度重なる延期でリスト作成に関する政治判断ができなかったためだ。欧州委員会はメルコスール全体とのFTA交渉がはかどらない場合、ブラジルのみと交渉を進める用意があるとするが、ブラジル政府は単独での交渉を否定している。なお、ベネズエラはメルコスールの関税体系へ移行中で、EUとのFTA交渉には参加していない。

メルコスール側で相次ぐ保護主義的政策の導入も、同交渉が難航している要因の一つと指摘されている。例え

ばアルゼンチンではあらゆる輸入に事前許可取得を義務付ける制度などが導入されているが、これに対し2012年にEU、米国、日本などがWTOに提訴した。またブラジルが導入している新自動車政策(INOVAR-AUTO)などの差別的課税措置に対して、EUは2013年12月にWTO協議を要請している。

なお、EUが一般特惠関税制度(GSP)の見直しを行ったため、2014年1月から、パラグアイ以外のブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、ベネズエラの4カ国がEUのGSP適用対象国から除外されている。

■政治経済両面で域内の課題山積

域内では政治経済両面で多くの不安要素を抱える。2013年4月に就任したベネズエラのマドゥロ大統領には故チャベス前大統領ほど求心力がないとされ、政治経済両面で国内の混乱を招く一因となっている。ブラジルやアルゼンチンなどはマドゥロ政権を支持する立場を表明しているが、2014年2月以降、同国では全国各地で政府への抗議行動が頻発し、死者が出る暴動にまで発展している。また、アルゼンチン政府は2013年10月に、自国からの輸出貨物積み替えをウルグアイの港で行うことを禁止した。これにより、ウルグアイの港での貨物取扱量が大幅に減少している。これは両国国境における環境汚染問題に関するウルグアイへの制裁措置とされるが、メルコスール域内での対立が明るみに出た事例だ。そのほか、アルゼンチンとブラジルの間には、自動車・同部品の関税撤廃を定めた経済補完協定(ACE)14号があるが、2014年6月に新たな追加議定書が結ばれ、同年7月から無関税での輸入上限枠が復活することとなった。なお、2008年に設定された上限枠は2013年6月末で有効期限が切れ撤廃されていた。上限枠の再設定を通じた無税での輸入を制限する措置の実施は、域内の完全な自由貿易達成にはまだ時間が必要なことを示している。

メキシコ、コロンビア、ペルー、チリで構成される太平洋同盟が枠組み協定の締結などを通じて連携を強める中、ウルグアイ、パラグアイがそれに接近している。2012年11月にウルグアイが、2013年5月にはパラグアイがそれぞれ太平洋同盟のオブザーバー国として認められた。両国とも国内市場が小さいため、農畜産物の輸出や物流拠点としての地位確立に力を入れており、自由主義的政策を進める太平洋同盟と親和性が高い面がある。両国の太平洋同盟への接近は、メルコスール諸国の通商政策が決して一枚岩ではないことを表している。

2014年に入りパラグアイがメルコスールの各種会合に復帰したが、今後は加盟国が一丸となって課題解決に取り組むことが期待される。